

学校 教育 目標	「自分の思いや願いを実現させていこうとする子」 ○学力を獲得した知識のみの枠に留めるのではなく、自ら学ぶための意欲と能力を加味した指導を実践します。(知) ○自分自身を知り、個性を認め合い、考えを尊重し合い、互いに共存していこうとする態度を育てます。(徳) ○多様な動機付けのもと、食育と体育の両輪による健全な身体の育成と体力向上を目指します。(体) ○発達段階に応じた探究・創造などの体験活動を重視し、「自分たちがつくる社会」について考える姿勢を育てます。(公) ○コミュニケーションを通して人と関わりつながっていくために、自分から挨拶する態度を育てます。(開)				
学校 概要	創立 71 周年	学校長 中村 真弓	副校長 大山 美香	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 556 人 主な関係校: 岩崎中学校、保土ヶ谷小学校、岩崎小学校、瀬戸ヶ谷小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岩崎中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<対話する力> <自分づくりに関する力>	岩崎中学校 桜台小学校 保土ヶ谷小学校 岩崎小学校 瀬戸ヶ谷小学校	自ら考えて行動し、他者と協力・対話しながら、 未来を切り開く子どもの育成 ・ブロック内での授業研究会や授業参観等を通して、各教科の系統性や授業形態の 違いを踏まえた意見交換を行う。 ・児童・生徒レベルでの小中交流を活性化させ、相互理解を図る。 ・学力状況調査を通して学力傾向や分布などを分析し、学力向上への取組に生かし ていく。

中期 取組 目標	児童、教職員、保護者、地域住民など、そこに関わるすべての人々が共に学び合い高め合う学校を目指します。 ○子どもたち一人ひとりが自分の考えをもち、対話を通して自他の違いを認め高め合い、考えを深められる学びを進めます。 ○様々な側面から客観的、主観的に自分について知ることから始め、自分の力で道を切り開く力を育てます。 ○子どもの意欲を引き出し、思いや願いを粘り強く実現する力を育てます。 ○子どもの情報リテラシーを高め、ICT教育をより一層推進します。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善 主体的な学び	①学習で身につける資質・能力に根差した 目当て を提示し、 見通し をもたせることで、 一人ひとりが主体的に学習に取り組めるように にする。教材研究に努め、板書計画や活動内容の工夫を行う。②重点研究のテーマを「 自分の考えを表現し、伝え合うことで、対話する子 の育成を目指した授業づくり」とし、国語の時間を中心に、自分の考えを豊かに表現できる言語活動を取り入れ、授業の充実を図ることで対話する力を育成していく。様々な場面で、 ICTを取り入れて いけるようにする。
徳	児童指導 人権教育	「 だれもが、安心して、豊かに 」生活できる学校をめざし、 自分について知るとともに相手意識をもって行動することを十分に価値付け、自分の考えを発信する力や他者の考えに共感する態度を育む 。また、異学年交流をすることで、他者に あこがれ をもったり 気遣 ったりするなど、相手意識をもった行動ができるようにする。
体	健康教育 安全教育	「自分の体を知ろう・守ろう・きたえよう～さくらっ子大作戦」というスローガンのもと、自分から進んで体育・健康プランに取り組む、授業・休み時間・給食時間等で食育、運動に関する取り組みを進める。そして、よりよい生活習慣が身に付くように興味・関心が高まるよう工夫する。「自分の身を自分で守る」という意識が高まるような防災・安全教育を進める。
公 開	自分づくり教育	「 自分たちの身の回りのことは、自分たちでより良いものにできる 」経験や「自分づくりパスポート」を活用し、自らの成長や学習状況、キャリア形成について自己評価することを通して、子どもたちが自らの可能性を見つけ、主体的に学び、考え、行動できる力を育む。
いじめへの対応		いじめ防止基本方針に基づき、未然防止に全力を注ぐ。毎月のいじめ防止対策委員会を機能させ、組織的に対応する。いじめ防止研修を実施して、全教職員のいじめに対するアンテナを高くする。児童のいじめ防止の意識も高められるようにする。職員の意識定着を図る。
人材育成・ 組織運営(働き方)		経験の浅い教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーのバックアップを受けながらそれぞれが目指す姿に向けて主体的に学び、相互に研鑽する。会議・研修を精選を前提にしつつ、学校教育目標の実現に向け、主幹教諭等が中心となってそれぞれの取組を組織的に運営する。
特別支援教育		一人ひとりの違いを認め合い、支え合う中で豊かな心を育て、誰もが活躍できる学校生活を実現する。また登校支援やクールダウンのための特別支援教室や、取り出しを中心としたスマイルルームを活用しながら、支援が必要な児童にとって、最適な教育環境を探り、インクルーシブ教育を実現する。
情報教育		ICT機器やデジタルコンテンツを効果的に活用し、児童の情報活用能力の育成に取り組むとともに授業改善を進め、児童一人ひとりにとって最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。教職員が積極的にICT機器活用に係る学びを進め、端末活用の日常化や校務の軽減につなげる。
地域連携		学校だよりやHP等を用いた情報の発信に努めるとともに、学校運営協議会や地域協働本部との連携のもと、地域・保護者の理解を深めながら、協働して児童の育成に取り組む。コーディネータと協働し、学校や周辺地域のひと・もの・ことを生かした社会に開かれた教育課程の充実を図る。
a15		b10
担当		